

入間市長賞

教育に使われている税金

上藤沢中学校 三年 石田 愛乃

何気なく過ごしている学校生活、その学校にも多額の税金が使われていることを「わたしたちのくらしと税」を読んで知りました。教科書、教材はもとより、私は茶道部に所属していましたが、部活動費も一部は税金で賄われているのではないのでしょうか。中学生一人あたり年間百九万円の税金が使われていると知りました。国の支出のうち約5%が文教及び科学振興のために使われています。

憲法では国民の三大義務が規定されています。「教育の義務」

「勤労の義務」「納税の義務」です。私は小学校中学校九年間の教育を、受けなければならない義務だと思っていました。つまり強制的に勉強しなければならない期間と思っていました。ただ調べて見ると、親が子供に教育を受けさせる義務を負っていること、これが本当の意味で、子供の義務でなく親の義務であることが分かりました。私が学校へ行き勉強するのは、義務でなく権利であり、そのことを親が責任を持つ形となっています。私達は年間一人あたり百九万円の税金を使い教育の機会を得ていることになります。九年間ではなんと一千万円近くにもなります。学校に行きたくない時、授業に身が入らない時でも同じように税金は使われていきます。心や体の病気などは仕方のないことですが、ただのさぼりや、不登校などは教育を受ける機会を失って、本当にもったいないことだと思います。

す。教育に税金が使われることは、国が私達に投資していることであり、将来「勤労の義務」と「納税の義務」を果たせる人を育てるためだと思います。そう考えると、平等に与えられた教育の機会にしっかり勉強しなければ、と言う気持ちが強くなります。

私は中学校に入学すると、SDGsをテーマにいろいろと学んできました。十七の目標の中に「質の高い教育をみんなに」と言う目標があります。南部アフリカ地域、西アジア地域、南アジア地域では、五人に一人が小学校へ通えていません。世界の国々の中には、公平で質の高い教育を無料で受けられず、中学校まで卒業できない国があります。原因はいろいろあると思いますが、日本のような税金を含めた社会制度が確立されてなく、教育に税金が投入される割合も少ないのでしょう。日本も少子高齢化が問題となっており、今後社会保障費が増え、子供が少なくなることで税金の負担が増えることが心配されます。ムダをなくし、支出を見直し収入を増やすことをしなければバランスが取れません。

今私達にできることは、学校教育の機会をしっかり活用し、より質の高い勉強をしっかりとすることだと思います。そのうえで税の仕組みを少しずつ勉強して、自分が税金を納めるようになった時、ムダのない税金の使い方、使われ方に意見を持てる人になることだと思います。